

切り絵画文集

【大和路の抒情

切り絵 100 景】 発刊記念

原画展 (60景を公開)

切り絵 後藤伸行、南口重治、文 宇恵義昭



切り絵
後藤伸行

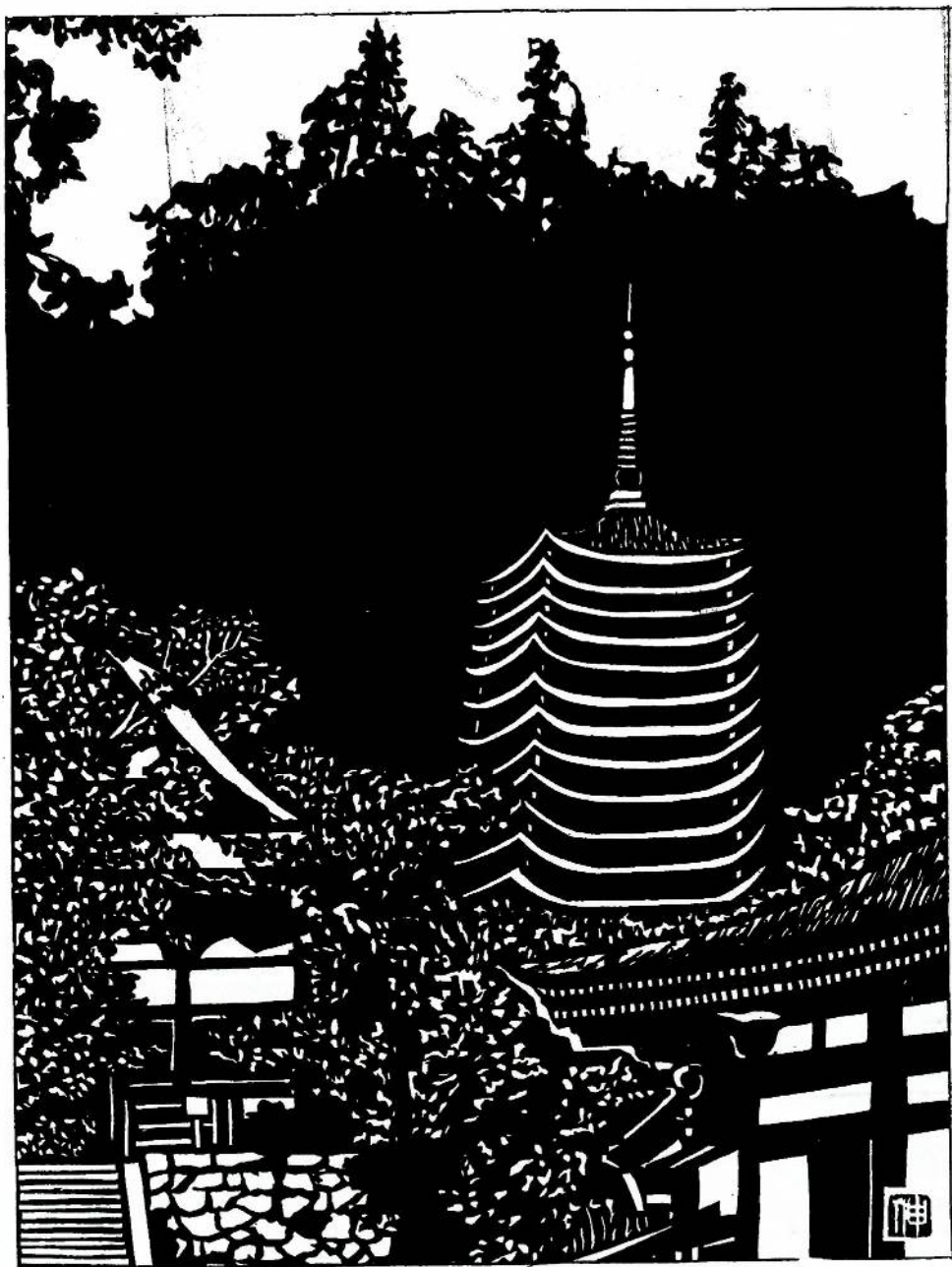
二〇二一
ル・サロン 展入選作品
東大寺大仏殿

主催日本切り絵百景館、全国切り絵芸術家協会

期日 6月20日(水)~8月20日(月)

休館日 毎週 火曜日 開館 午前10時~午後4時

切り絵百景館 電話 0278~52~2022, FaX0278~52~2181



談山神社く十三重の塔

山に抱かれて極彩色の建物と古い石造美術があちこちに見える談山神社だが、作家の徳富蘆花は、そうした深い山の中に見え隠れする風景を『大和路』の中で、

「極彩色の土佐絵である。思い切つて美しいが、少しも卑しくない」と書いている。

藤原鎌足の息子定慧きが建立した木造十三重塔は高さ十七メートル。檜皮葺きの豪壮なものである。室町時代の再建だが、木造十三重塔としては日本唯一の遺構である。

談山神社はかつて神仏両様の形式で藤原鎌足を祀り、寺領六万石におよぶほどに栄えたといわれ、時には衆徒、僧兵が勢力を張って奈良興福寺僧徒と戦つたりもしたが、明治に入り神仏分離令で現在の姿となった。

大和路の抒情切り絵百景発刊記念原画展(60景を公開)

古都奈良

東大寺大仏殿
転害門
元興寺山門
極楽坊
石仏群
白豪寺の石段
般若寺の楼門
奈良駅
国立博物館

佐保路と西の京

興福院
法華寺南門
朱雀門
薬師寺南門
薬師寺遠望
薬師寺金堂
薬師寺東塔
唐招提寺金堂

山辺の道

弘仁寺
正歴寺の石仏群
大和神社
竹之内環濠集落
大神神社大鳥居

斑鳩と法隆寺

法隆寺南大門
法隆寺金堂
法隆寺西円堂
法隆寺五重塔
法隆寺夢殿
斑鳩の里点描
法輪寺
発起寺

飛鳥・橿原

石舞台
飛鳥板蓋宮跡
入鹿の首塚
橘寺
岡寺の本堂
橿原神宮
今西家住宅
称念寺の境内
橿原市昆虫館

吉野・十津川・五条

蔵王堂
吉水神社～桜花幻想
如意輪寺の山門
宮滝
谷瀬の吊橋
笹の滝
玉置神社
龍泉寺境内

桜井

安倍文殊院の浮御堂
段山神社～13重の塔
段山神社の拝殿
長谷寺の山門
長谷寺の登廊
長谷寺の全容

生駒山と矢田丘陵

信貴山朝護孫寺
長弓寺門前

宇陀・室生・月ヶ瀬

室生寺の五重塔
大野寺の磨崖佛
多田来迎寺 落ち葉の散華
宇陀水分神社
都介野岳の眺望

切り絵画文集

【大和路の抒情】の発刊に

文筆家

よせて ライフアドバイザー 宇恵義昭

「住み人知らず」とは良く言ったものだ、大和に住む私より群馬に居住する後藤氏の方が、はるかに「大和」を知っている。勿論地理や建造物の所在ではなく、「歴史文化」としての大和の情感である。その作品は切り絵独特の技法である白黒の選別でみごとに表現されている。

大和は京都のきらびやかさに比べ、手つかずの自然の中に調和されていて、その味わいは歴史と文化の源流という動かしがたい事実の上になりたっている。

「大和路」に挑まれた氏に心より敬意を表し、今後のご活躍を祈念いたしております。

神坂峠の旅から

日本切り絵百景館々長

全国切り絵芸術家協会々長 後藤伸行

1977年(昭和52)夏、切り絵の創作を始めて間もなく、東国と畿内を結んだ東山道の最大の難所が、神坂峠であることを知った私は、この地を訪ねることにした。伊那の阿智村から標高1600mの峠をめざした。恵那山の鞍部にある峠の西側は深い溪谷に沿って道が下り、中津川の坂本まで40キロ、危険な個所がおおく、旅人は難儀に苦しんだことが推測された。この道を東国から調庸(税)のために絹布や紫草が人夫によって奈良へと運ばれたのであった。

旅人は峠の頂上で旅の安全を祈り、神に捧げものを供えた。

1980年(昭和55年)9月5日私は近江鉄道の八日駅におりたった。

2ヶ月前にNHKのテレビで放映された(ふるさとのアルバム)でこの地で紫草を栽培している塚本儀一氏【故人】を知った。私は上代において武蔵国でも紫草が栽培され、薬と染色の為に都に出荷されていたことから、この草を探していたのであった。氏の案内により、氏の庭に咲いている紫草を教えていただいた。それはふたすじの窪みをもつ五弁の白い花で野菊の如くかれんであった。翌日塚本ご夫妻にとりなわられて、船岡山の万葉歌碑を訪ねた。暮れなずむ蒲生野の丘で壬申の乱を暗示する歌の背景と、人の運命について想いめぐらしたのであった。

川場から奈良にいたるざつと500キロの道程を、時に夜間の高速バスを利用し、^{時に}愛車を駆って160景の切り絵創作の画業に取り組むことができたのは、会友・南口重治氏と奈良県在住の文筆家宇恵義昭氏の大きいなる支援のたまものであった。日本の歴史・文化の原流を訪ね切り絵に表現したいとの強い欲求の旅は、飛鳥の里の取材から始まったのであった。



石舞台古墳「特別史跡」